

香葉



1985

NO.14

目 次

講演会ご案内	1
「発展する母校」	林 淳 三 2
「守・破・離」	鈴 木 彰 3
覚え書 (十四)	上 市 二 郎 4
展 望 (先生方へのインタビュー)	6
「上市先生を囲む会」報告	光 畑 清 8
チャペル建設に向けて	9
「旅・雑感」	古 城 房 子 10
香報室 (卒業生のメッセージ)	12
三春台の会報告	門 根・古 城 16
五十九年度“香葉会のつどい”報告	17
賛助金の御礼	19
香葉会決算・予算報告	20
母校ニュース	22
編集後記にかえて	24

表 紙……………関 頼 武
カ ッ ト……………青 木 千 恵 子



短大祭参加

『永井路子先生講演会』



香葉会では、よりたくさんの卒業生の皆さんに、母校に足を向けていただければと、講演会を企画いたしました。第1回目は永井路子先生をお招きすることになりました。是非ご参加下さい。

日時：11月23日(土)

12時00分～

場所：短大1号館503号室

協力金：500円（当日会場にて）

（香葉会育成の為、会員のみご協力を）

尚、同封のハガキにて一応の出席を11月20日頃までにお知らせ下さい。

略歴

大正十四年（一九二五）、東京に生れる。東京女子大國語専攻科卒。編集者を経て作家生活に入る。

昭和三十九年、鎌倉三代の時代的特色をとらえた連作形式の歴史小説「炎環」で、第十二回直木賞受賞。

昭和五十七年、日本渡来後の鑑真の軌跡に光をあてた「水輪（ひょうりん）」で、第二十一回女流文学賞受賞。

昭和五十九年、「水輪」や藤原道長を描いた「この世をば」などで、難解な資料をもとに複雑な古代、中世社会の姿を歴史小説に導入し、新風をもたらした業績によって、第三十二回菊池寛賞を受賞した。

ほかにNHKの大河ドラマでも知られる「北条政子」、細川ガラシャ夫人の入信の動機を女の目でとらえた「朱なる十字架」、浅井長政の末娘おこうの生涯を描いた「乱紋（らんもん）」等の長編がある。

文庫になっている「歴史をさわがせた女たち・日本編」は百万部を超えた。

また、権力と権力の衝突の過中で忍従を強いられたり、もてあそばされたり、おのれの性（さが）を生きたりする多くの女性、また男性の姿が時には哀感をこめて、時にはシニカルな眼で鮮やかに描き出されている短編も多い。

現住所 鎌倉市笛田一四五八

✧香葉会の部屋✧ご案内

卒業生と在校生、教職員との交流の場として、又、卒業生の部屋として3号館101号室にて、コーヒーと手作り菓子の無料サービスをいたします。皆様お誘い合わせの上、是非お立ち寄り下さい。

発展する母校

林 淳 三



本学は毎年八〇〇名弱の卒業生を送りだしているが、香葉会会員数も、すでに何年前前に一万人を突破したと聞く。最初小さな学校と思っていたが、年月がたてば随分多くの卒業生が出るものであることに驚かされて

いる。さらに、この数年間、わが国の高校卒業者が激増することから、本学でも社会の要請に答え、新しい学科の設置（昭和六十二年度に経営情報科開設）や、英文科・国文科・家政科（家政専攻・生活文化専攻）に臨時定員を申請する計画をもっている。現在の約一、六〇〇名の学生数は、三、四年後に二、〇〇〇名近くになる予定である。なお、今年から開設された家政科の生活文化専攻は、従来の家事技術中心の家政科から、「楽しく生活する」ための家政科へ脱皮がはかられ、昭和六十二年三月には新しい感覚をもつ家政科卒業生が巣立つはずである。

昨年は関東学院創立一〇〇周年に当り、学院各校で記念諸行事・諸事業が行われたが、本学では生活文化研究所開設（昭和五十四年十月三日開所式）と、チャペル建設が計画されている。そのうち研究所は短大として独自の設置は珍しいが、本学の特色、キリスト教主義の女子短大教育を助長する研究機関として設けられた。すなわ

ち、本研究所の目的は、人間を含めた生活現象を対象にして、生活を文化的、科学的両視点からとらえ、総合的に研究しようとするものである。すでに、「生活文化とキリスト教」など五つのテーマが採択され、研究が行われている。また、筑波大村上和雄教授による「生命の神秘を探る」など、いくつかの学術講演や、本年十月には「女性と生活文化」という、研究所主催の公開講座が、神奈川県教育委員会委託もとに開かれる予定である。

関東学院創立一〇〇周年記念事業のもう一つのチャペル建築は、卒業生の皆さんのご協力により着々と進められている。すなわち、本学室の木校地に隣接する旧大学野球場が、短大校地として確保することができたので、そこにテニスコートや弓道場を移し、チャペルは現在のテニスコートの場所に建設することになった。目下、宗教主任はじめ教職員で基本設計が検討されていて、本年度中に移転準備と設計を終り、昭和六十一年度中に建築されることになる。このチャペルは本学の建学精神をあらわすシンボルであり、本学にかかわるすべての方々の祈りの場所、心が磨かれる場所になるはずである。そうした意味から、私はこのチャペル建築は卒業生、在校生、教職員の協力一致で行いたい。是非とも卒業生諸姉多数のご協力を願う次第である。

先に旧大学野球場が本学の校地になったと述べたが、これは釜利谷校地の短大グラウンド予定地とこの六浦の大学野球場が交換されたことによる。そこには本年の予定工事としてフェンス、芝張り、テニスコート四面が造られるが、数年内には体育館兼講堂、新学科演習室を含む研究棟などが建てられ、現室の木校地と一体化した女子短大キャンパスができる予定である。

以上のように本学は質・量ともに充実しつつあるが、高度情報時代にふさわしいミナトヨコハマの国際性をもつ女子の大学として躍進しつつあることを申しあげておきたい。

守・破・離

— 女子短期大学に来て —

事務長代理 鈴木

彰



私は子供の頃から剣道を学んで来ました。体が弱かったので

体を強くするため学ばされたのかもしれない。そのさい学んだ修業心得に「守・破・離」という言葉があります。私は物事を習い始めるときに、いつも「守・破・離」を考えます。

「守」とは、教えを守ることです。それを守り破りたいと努力することが「破」です。そして自律して離れていくことが「離」です。

私は、昭和五十八年四月に法人事務局から

女子短期大学に参りました。最初の仕事は新図書館の建設とその運用でした。図書館運用のコンピュータ化、視聴覚教室等女子短期大学にふさわしい図書館を館員とも作っているうち二年が過ぎました。今度は、上市二郎事務長が停年退職になり、そのあとを引継ぐことになりました。しかし、「守・破・離」の「守」の段階にまだとどまっております。なかなかしてと、毎日新しい仕事に悩みの連続です。三十八年間勤続された上市二郎事務長あとを引継ぐことは無理ではないかとも思いました。とにかく初心にかえり努力する覚悟であります。これから「破・離」を学んでゆきたいと思えます。そのために、皆様のご協力をお願いする次第です。

終りに、関東学院女子専門学校が関東学院女子短期大学となり四十年になろうとしています。これからのますますの発展は卒業生の活動にかかっていることをご考慮下さるとともに、私達の女子短期大学の発展のためにご協力下さるようお願い致します。



〇×〇×〇

母校で働いてみませんか！

関東学院女子短期大学でアルバイトをしてくださる方の登録を行っていますので、希望者にご連絡下さい。

職種：一般事務、勤務時間：平日 8時30分～16時30分

時給：550円

連絡先：関東学院女子短期大学 庶務課

TEL 045-784-1491

〇×〇×〇

覚え書 (十四)

— 女専・短大小史 —

上市 二郎

前号の原稿を執筆してから約二カ年の歳月が流れた。十三号冒頭にも記したように関東学院の歴史は、明治十七年（一八八四年）横浜バプテスト神学校から始つてゐるので、数えて昨年、即ち昭和五十九年（一九八四年）は百年に当り、関東学院では創立百周年として色々の行事が行われた。そのうち短大に關係ある主なものを二、三記述しておこう。

前にも述べたが新図書館が計画通り完成した。五月二日（水）には学院の關係者が集り新図書館の献堂式が挙行された。そして五月二十六日（土）午前十一時より盛大な開館披露が行われ各大学図書館関係者の出席で大変に賑つた。

秋を迎え、記念事業の一環として生活文化研究所が設立され、十月三日（土）にはその設立開所式が挙行された。全学院をあげて十月六日（土）には学院創立百周年記念式典

が新校地（釜利谷校地）で約三千名の出席者をもつて盛大に挙行された。続いて短大では待望の記念行事の一つとして作家の遠藤周作先生を招聘して記念講演会を十一月十四日（水）開催した。短大祭は十一月十七・八両日に亘り開かれ、特別企画として日本体育大学体操部の学生二十数名による各種の名技が披露され教職員および在校生の目を楽しませてくれた。今回の短大祭から香葉会企画の展示や種々懇談できる部屋が設けられ、その上卒業生有志により無料の飲み物のサービスなどが行われ、会員相互並びに在校生との交わりの場となつたことも記しておこう。最後に最も大きな記念事業は女子短期大学専用のチャペル建設である。目下事業資金の募集中で期限は昭和六十二年三月まで続けられる。この事業は教職員、在校生、卒業生、それに短大後援会役員も加わり、文字通り総力を結集して当ることになつてゐる。在校生、卒業生は勿論短大関係者の心よりどころとしての記念チャペルを完成すべく皆さんのご協力を仰いでゐる。六十年度はパイプオルガンを備えたこのチャペルの設計準備に進んだと聞いている。また、六十年四月からは家政科に新しく生活文化専攻が増設され発足した。これ

で英文科、国文科、家政科（家政専攻、食物栄養専攻、生活文化専攻）、幼児教育科の四学科三専攻を有する女子短期大学になつたのである。

さて、前置きが少し長くなつてしまつたが前回は二十九年十一月に行われた四短大交歓会のことまでであつた。十二月に入ると正月早々に実施するスキー実習の案内が発表され、例年の如く妙高々原を使用することで、一月四日（火）の夜、上野駅を出発し九日（日）朝、上野に帰つてくるという計画、宿舎は香風館、付き添いは相川、光畑、安藤、池田の四先生に捜真女学校へ転任された門根先生の応援で実施され、その費用は二千五百円という、こんなチャラシが学生に配布されていた。

十二月十七日（金）は六浦校地へ短大全部が移つての初めてのクリスマスス礼拝が大学と合同で行われた。そのため短大としてはその日の午後独自の計画を打ち出して、ページェント、スタンツ、プレゼント交換など盛り込んで親睦を深めての祝会を行つたのである。

英文科第二部も翌十八日（土）午後七時から大島邦雄牧師の奨励によりクリスマスス礼拝が行われ、終了後は昼間部の家政科の裁縫室（被服実習室のこと）に於て祝会を開いて親

陸を深める機会を持ったのである。当時の裁縫室は現在の大学経済学館（七号館）一階の南に面した所である。

明けて昭和三十年を迎える。一月の最初は前述の発表されたスキー実習、予定通り実施され無事に終了している。一月には女子寮の舎監が松垣好子先生から井口安喜子先生に変わっている。二十日（木）に開かれた教授会では、「今後松垣先生を寮の顧問とし、寮内の学生生活は総べて自治的に行うこととする。そして女子寮の正式名称もルツ寮と改める。」とこれよりルツ寮の名称が始まるのである。

その前の年の夏休みに増築した集会室（兼食堂）にはガス風呂も備えられて女子学生寮として一応整った型が完成したのである。

一月中旬過ぎ前理事長のアキスリング博士は五十有余年に亘る宣教生活並びに学院創立（関東学院となった大正八年）以来の理事としての生活を終り、夫人同伴にて去る十八日（火）午後四時出帆のクリーブランド号にて帰国の途につかれた。同博士はアメリカに於て余生を送られる予定で当年八十三歳である。また、その折、八号館（現在はオーリーアの広場となっている所）の南側の地に神学部（既に十二号に記述済みの学部）校舎の建設

が決定したと。この二点の報告が相川部長からなされている。

二月に入ると、今までもたびたび話題となっていた三年制短大の問題、二年制短大の上に専攻科を設ける問題について論議されていた。この件に関し今後どういう風に調査研究を進めて行くかについて再度話し合いがあった。三日（木）の教授会ではその研究委員が相川、時田、柴、松垣の四先生と私が選ばれた。後日文部省へ出向いて調査した結果、その頃三年制短大で英文科を設置しているのは大阪の梅花女子短大一校のみであること、家政科の三年制短大は一校もないことが判った。また、文部省の事務官は、教員組織の面に対しても各学科毎に八乃至九名の専任教員を考へねばならないこと。そして専攻科の単位は約三十単位以上準備して、この単位は本科の単位に加算されないものでなければならぬこと。など詳細に説明を受け、これを持ちかえり研究委員会で具体的に検討し研究を進めていったのである。そして翌三十一年には専攻科の設置申請に踏み切ったのである。

六浦校地へ移転してますます問題になってきたのが五日制授業のことである。大学各学部（昼・夜）および短大英文科第二部は総べ

て六日制授業を行っているが、短大の昼間女子のみが五日制授業である点、移転する以前からたびたび学院長の申し出があつて研究を進めていたのである。そのためには本学と同様の女子教育のミッシュンスクールといわれる学校十校に対して問い合せするなどして実状調査を行った結果は十校中八校までが本学と同様五日制の授業を行っていることが確認された。そのため学院長同席の二月二十四日（木）に開かれた教授会の席で、「従来通り五日制授業をもつて来る四月からの授業も行うこと」と決定したのである。

この年は二月二十五日（金）をもつて授業を終り、二月二十八日（月）から第二部の卒業試験、三月一日（火）からは昼間部の卒業試験と只今とはだいぶ日程が遅れている。三月十六日（水）午前十時からの卒業礼拝には、讚美歌委員会委員長の由木康先生の説教により励まされ、また、英文科第二部は三月十八日（金）午後六時から青山学院大学文学部長の気賀重躬先生により卒業礼拝の奨励が行われ、引き続き午後七時からは第二部校友会の送別会が行われていた。いよいよ二十九年度の終りを迎え、移転から満一カ年が過ぎようとしている。（つづく）

展覧



このインタビューのコーナーは、好評のうちに6回目を迎えました。各分野でご活躍中の先生方に、お忙しい中をご協力していただきました。教室では見られなかった先生の横顔を見ることができるとおもいます。

質問1 先生になられた動機(きっかけ)は何ですか。

質問2 最近特に感動したことは何ですか。

質問3 短大付近でお好きな場所はどこですか。又そのわけは。

質問4 今一億円あったなら何に使いますか。



学長 林 淳 三

1

生まれながらにして教員になるような環境にあつたわけですが、直接的なキッカケと言えば、旧制高等学校を出たときに希望のところに就職が出来なかつたんです。その時、代用教員として隣の村の小学校の四年生、六十七人を教えることになり、その時、これはとてもおもしろいと感じたんです。小学校か大学の先生になりたいと思つたんです。

その代用教員時代、教員というのはやり

がいがあつて、人生の中で全力投球できるすばらしい職業だと感じたわけです。

いなかの学校でね、「やまびこ学校」のようで、ほんとに良かったですね。

2 ウーム、そうね。毎日気を張っている

のでね、特に感動したことと言つてもね、チヨット……。(先生はほんとうに毎日

超人的な忙しさなのです)

3 そう、それはね、野島の夕照橋を渡つて左に行つて、平潟湾を挟んで短大を見た

とき、これはもうほんとうにきれいですよ。君達も見えてごらんさい。特に満潮

時に船がこう、静かに浮かんでいてね、白いヨットの帆があつたりね。その向う

にこう、短大の校舎が浮かび上がつていて……この景色はとにかく美しいですよ。

新金沢八景の一つに入りたいぐらいですよ。時間があつたら君達も是非行ってごらんさい。

4 一億円あつたらねー！全然足りないけど

もね。そうですね。自分の理想とするような学校を創つてみたいですね。専門と教育理念の合った学校を創りたいと思いますね。まあ百倍以上ないといけない

けどね。ハハハ……。

一般教養 下田 哲



1 関東学院大学の宗教主事をしていた頃、

関東学院中高の自然教室や短大のリトリートなどに講師として参加した際に教師の重大さを知り、興味をもったその折りに、兵藤先生のすすめもあって、短大の教師になりました。

2 いろいろ考えてみて、特にあまりないのですが。おもしろかったことと言えばプロ野球の阪神タイガースが活躍していたことかな。

3 第一に、短大の中庭。狭まいけれど、木や草が多くて、心が休まります。

4 第二に、八景から短大へ向かう平潟湾添いの歩道。信州の松本で育ったので、海へのあこがれがあるせいかもしれませぬね。

4 チャペルの建設資金の一部として寄附したいですが、個人的には、短大の中庭ぐらゐの広さの中に線路をひいて、実物の

十分の一ぐらゐの石炭で走る機関車を、自分で乗りこんで動かし、楽しみたいですね。

英文科 小玉 敏子



1 そうですね……高校を卒業するときには、

大学へ行きたいと思い、大学を卒業するときには、外国に留学してもう少し勉強したいと思いましたが、「先生になりたい」と両親に言ったのだと思います。

2 あまり覚えていないことになりませぬ。深く感動する経験がないことになりませぬ。日常生活に追われていることになるのでしょうか。でも庭に生えている雑草を見て、人に踏まれてしまうような小さな花が美しいなあと思うこともありますし、

3 精一杯生きているのを見て感動することもありますね。自分も一生懸命に生きなければと思います。

3 ほんとうはぶらぶら歩くのが好きなんです。

すけれど、この頃はあまり外を歩く機会がありませんね。せいぜい学校の帰りに金沢八景まで歩くくらいですね。大抵暗くなっていますけれど……学校のなかでは

4 教務課と研究室の間を一日に何回か往復します。あの渡り廊下が好きですね。ゆったりしていますものね。南向きなので冬は暖かいし、夏は窓を開けると風通しがよくて涼しいですね。いろいろな人に

5 会いますし……それから、二号館の五階から眺める海や松並木もいいですね。広重の絵に描かれている景色を新しい住宅のうしろに想像することもできます。夕日もいいですね。とてもきれいなときがあります。富士山が見えることもありますし……受験生のことはではありませんが、「環境がいい」ですね。

4 宝くじも買わないので、あまり実現しそうなもない仮定のように思えますが、今だったら短大のチャペル建設の基金に寄付しましょう。ツタのからまるチャペルが建つか、どんなチャペルが建つかかわりませんが、この短大にふさわしいチャペルが建つといいですね。

「上市先生を囲む会」報告



うっとうしい梅雨の晴れ間の六月二十二日（土）午後、むし暑さをおして、ここの山下町のホテル・サンポートに、女子短大の歴史を物語るように、女専、女子高校、短大、短大二部、女子短大卒業の有志六十名が出席、学校からは林淳三学長と小玉敏子先生が参加されて、「上市先生を囲む会」が催されました。

話や感謝の言葉を述べ、上市先生のご苦労とご努力に対して、心からの敬意を表わしました。

香葉会にとりましても上市先生は、かけがえのない存在でした。常に卒業生のことを心に止められ、会の活動や運営のために骨身を惜しまずご援助下さいました。

ご退職後は、学内の生活文化研究所と香葉会の事務をお手伝い下さることとなり、ご縁が切れるわけではありませんが、この機会に永年のお働きを感謝し、そのご労をねぎらい、記念品をお贈りして会を閉じました。

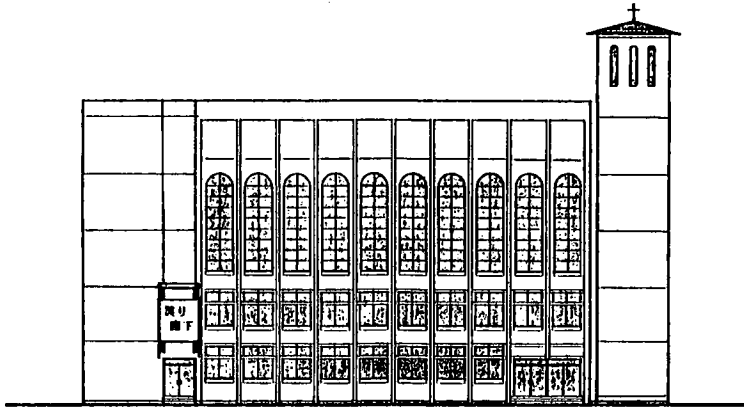
〔出席者〕

林淳三学長 小玉敏子先生 柳生二三 田辺ひろみ 古郡綾子
 志賀ミチ 成瀬節子 葛城容子 井坂すみえ 吉原千恵子
 徐多恵子 長谷川有紀 鈴木恵美子 和田澄恵 藤田功子
 重田和子 菅野弘恵 蜂谷弘子 沢島時子 古城房子
 松上尊子 洲上龍美 佐藤美代 春田宏子 一之瀬浜子
 斉藤昌美 菅原千代子 長嶋郁子 大島智子 飯田冨子
 三宅伸子 加藤明日子 山口周子 小浜朝子 松下幸子
 前田和子 三村勝美 安彦潤子 相吉典子 井上啓子
 肆矢三佐子 岡田孝子 桐生和子 海老沢さよ子 塚本れいこ
 佐藤久子 小山郁子 竹村久子 横山涼子 大谷弘美
 五十嵐亮子 石田禎子 西村恵子 長島雅恵 新堀妙子
 鈴木トク子 福川浩代 沖田謬子 辰沼滋子 原芳子
 山谷澄子

（短英一 光畑清・記）

去る三月末日をもって定年を迎えられた上市二郎先生（事務長）は、女子短期大学を退職されました。上市先生は、女子専門学校の創立当時からおよそ三十八年の間、歴代の学長（相川・坂田・富田・下田・林）の片腕として、その基礎作りから現在の女子短大への発展のために盡され、文字通り短大の歴史と共に歩いてこられました。この会では、学長先生や小玉先生、有志の方々数名が、思い出

チャペル建設に同窓生の熱い心を！



〈チャペル完成予想図〉

100周年記念事業の1つとして、短大では「チャペル」を建設いたします。つきましては卒業生の皆様一人一人の気持ちを“魂”として込めたい、これが学長始め、短大全教職員、そして香葉会の心です。

どうか建設募金にご協力下さい。短大としては創立以来、初めての寄付ということもあり、香葉会員として協力しようではありませんか!! 金額は問いません。

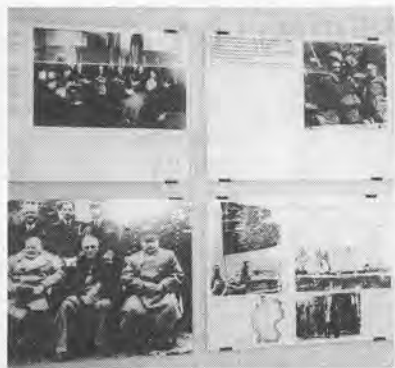
申込み等、詳しいことは香葉会事務局へお問い合わせ下さい。 045-784-1491 (内 216) 洲上まで。

尚、既に募金をしていただいた皆様には心より御礼申し上げます。

旅・雑感

古城 房子

遂に行ってきた、ベルリンへ。最初は単にセンチメンタルな興味だったかもしれない。しかし今回の旅で、どうしてもこの目で確かめたかったのが東ベルリンと東ドイツであった。西ベルリンの観光バスで二日に亘り、ポツダム、サンスーシー、東ベルリンを見た。ポツダムは第二次世界大戦末期（一九四五年七月二十六日）米、英、中の三国が日本に降伏の機会を与える条件に同意し、降伏の勧告「ポツダム宣言」を調印した歴史的場所であ



ポツダム宣言記念の写真

り、フリードリッヒ大王の居住していたサンスーシー宮殿のロココ調の、正に調印をした一室を見ることができたのは、戦中派の私にとつて深い感慨を覚える一瞬であった。東ドイツは田園風景の広がる緑と色鮮やかな花々の美しい国であった。ベルリン周辺にあるというソ連の基地は見なかった。恐らく目に入らないように組んだコースであろう。東ベルリンの街も、そこに住む人も、西ベルリンと大差なく活気もあり、平和に見えた。物価も西側の四分の一位の安さだ。検問所から加わった東側のガイドは、いかにも役人という雰囲気のあるインテリ中年女性で、ドイツなまりだが正確な英語で丁寧な説明をしてくれた。日本人とみて、日本人団体客に上げたという日本語パンフレットをわけてくれた。東側に入るといっても特別な緊張感はなく、写真も自由にとれ、西のマルクをそのまま使う事もできる。しかし一方、入国にはチャイリー検問所で一時間はたっぷり待たされる。バスに乗り込んできた役人がパスポートと本人の顔を確認するが、二階建てバスだから、かなりの人数である。一人は、じつくりと見比べられて「今は髭があるからね」と指で鼻の下を隠して見せ、いかめしい顔付の役人をニヤツと



ファシズムからドイツ国民を救ったソ連の榮譽を讃える像

させる一幕もあった。出国の時は、大きな鏡で車体の底を隅なく点検、再び首実検。見ていると、車や徒歩の人は、簡単なやり取りとパスポートを見せる丈で自由に出入りしている。中にはノーチェックの車もある。外交官の車か？ベルリン内の行き来は案外ゆるやかなのか、聞きそびれた。東西ベルリンはあの悪評高い壁で遮られているが一ヶ所丈、太い自動車道でつながっている処がありトラックが走っている。西側の塵芥を東側に運んで処理してもらい、費用を払っているのだそうだ。東西共存の一面か。しかし西ベルリン側の例の壁には逃げようとして命を落した多くの人

を記念する十字架が並んでいる。壁から二〇〇m程の中の木も建物もない平らな土地、東側近くに建てられた監視塔の人影、東ドイツで見た巨大なモニユメント、それは説明によると「ナチスの暴政からドイツ国民を救ったソ連の榮譽を讃える像」であるそう。それらを見て悲愴な感慨を抱かざるを得ない。平和そのものにみえるドイツに戦後は未だ続いているようだった。若者には二年間の兵役義務がある。回避できるのは健康上の理由で、拒否した者は三年間の社会奉仕が要求される。老人ホーム、肢体不自由児等の福祉施設で働かなければならない。ベルリン大学に進学した者は兵役免除の特典がある。年々減る一方の人口を何とか維持しようとする国策の一つとか。ドイツは自然も街も絵ハガキそのままの美しさである。戦火に焼かれた街は、写真や絵画を元に、中世の通り再建されている。流れる河には護岸設備もなく岸辺の草木が水面に姿を映している。しかしあのロマンティックな古都ハイデルベルクには米軍のヘッドクォーターがあった。各地に核兵器基地も止むなく提供している。ドイツは未だ、東はソ連、西は連合軍の占領下にあるという事実を、迂闊にも私は知らなかった。最近ボルクスとい



ベルリンの壁西の見える監視塔の展望

う街でコーカサス地方で補償生活をした旧日本兵とドイツ兵の「シベリア抑留四十年再会」のパーティがあったそう。当日、通訳をしたハイデルベルク在中の妹の話によると日本人が「同期の桜」、「異国の丘」を歌い、ロシアの悪口を云うのに対し、ドイツ側は、同じ戦争の被害者としてロシアの兵士達の戦死者とその母親の為にもお互いの許しを乞う祈りの詩を朗読し、今尚、戦いに苦しんでいる人々の為に、日本の原爆で死んだ人々の為にとローソクを灯して歌を歌ったりしたことが非常に印象的だったそう。今だナチスの戦犯を許さず、被害者としてばかりでなく、加害者として自らを恥じその責任を担っているドイツ、戦争による死者が日本のご二倍以上の数に上り、その慰霊と平和祈願の為、会員制と寄附で年間五千万マルク

（約四十億円）の子算を組んでいるドイツ（因に日本の今年の予算は六千五百万円とか）戦争という愚かなことを二度と再び起さないように……という切実な願いがドイツ側により強かったという事実は、私が今回の旅で知らされた一面であった。帰国当日テレビは広島原爆記念の放送をしていた。それから十五日の終戦記念日迄毎日、新聞テレビで戦争体験が語られていた。改めて四十年間戦争のなかつた日本の幸せを思わずにはいられない。一ヶ月近くヨーロッパを放浪して、道中で知り合った各国の人達の優しき、人類の気が遠くなる程のエネルギーを感じさせる巨大な文明の遺跡、それらを守る為にも、平和を守ることが私達の義務だと教えられた旅もあった。



てにダムツボ

香報室



この欄は、卒業生の皆様の消息、感想文、等の発表の場として用意いたしました。今回も引き続き、昨年の総会出欠通知から無断で転載させていただいておりますが、短大香葉会「香葉」編集局宛、次号への原稿などお送り頂ければ幸いです。

一年の大半を勤務先に居りますので、皆様の小グループ旅行又、ご家族旅行にご利用下さいませ。

「いけも山荘」

長野県軽井沢町長倉二一四七

電話 ○二六七四―五―五六二二

チャペル建設へのご努力感謝して居ります。

※光島（西原）洋子 29英※

卒業して三十年も過ぎたなどとは信じられないような気がします。その間のめまぐるしいばかりの母校の発展は我が子の成長を喜び気持ちにも似たものがあります。

社会に出たばかりの息子と、まだ親の脛をかじっている二人と計三人の息子達。子育てに家事にと忙殺されている毎日です。その中でふと心をよぎるカレッジライフの過ぎ去った思い出は、私のまたとないなぐさめでもあります。

※菅野（吉田）弘恵 29英※

人に教えるむずかしさを毎日痛感しています。関東学院で学んだオーラルの仕方などは今でもあざやかによみがえって、そのまま使うのもあります。私は子どもが大きくなるのを待って勤めたものですから二十才の後半で

すべて教師としてできるべきものがすんなり入っていかず今だにもたもたしております。香葉になつかしい先生方のお名前をみつけ、感動しました。

（三鷹市立第三中学校）

※川本（三浦）良子 31英※

「香葉」お送りいただきまして、ありがとうございます。いつも楽しみにしております。

成人した二人の息子との生活ですが、子供も大きくなりますと、それぞれの都合で帰日も遅く、全員揃って食事をすることもなくなり、下宿のおばさん」といった感じです。

五年程前から体調を悪くし、今も月二回、通院しながらの勤務ですが、最近リハビリのつもりで「自強術」という体操教室に入り、体力づくりに、はげんでおります。

（瀬谷区役所勤務） ※小野和子 35家※

いつも香葉を送っていただきありがとうございます。大変懐しく、又楽しく拝見させていただきます。目を見張るような学校の発展に、二十何年前に卒業した私には、想像さえつかない思いがしています。嬉しい事です。増々、母校が発展していきます様、は

るか札幌より祈っております。

※高橋（今井）玲子 35家※

本年も「香葉」をありがとございました。

卒業しましてから十九年にもなります。平素ごぶさたばかりでしたが、四年前に母校を訪れる機会がありました。あまりの立派さに見間違うばかりでした。母校の榮譽ある発展に卒業生の一人として大変嬉しく思いました。家政科専攻の私は、上市先生、松垣先生、

鳥越先生、井口先生を忘れることは出来ません。私自身、結婚して妻、母、学生の三役をこなしての二年間は、さまざまな思い出があります。井口先生には本年三月をもって、ご勇退とのこと、本当にご苦労さまでした。名誉教授のご称号も授与され、重ねてお喜び申し上げます。尚、最後に松垣先生の悲しいお知らせに謹んで哀悼の意を表します。おやさしかった松垣先生です。天国に召されましてもきつと、ニコニコとされ安らかにおすごしのことと思います。

（聖路加国際病院（事務）勤務）

※藤沢弘子 40家※

結婚十二年目に子宝に恵まれ、十年來住ん

でいた横浜より主人の田舎にもどりました。

大きな川あり、自然環境だけは充分、十才位若いお母さん方と子育てに毎日時間に追われ自分の年を忘れられました。

※飯島（見上）和子 41家※

子供は小学四年の男の子一人と主人、私の三人家族です。仙台から転勤して横浜の生活も五年目になろうとしています。学生時代の友達と道でバッタリ会う機会はありません。チョッピリ寂しいです。子供の手も離れようとしています。中学受験させようと思うとあまり活動も出来ません。家でパンを教えています。 ※荒木（長沼）とき子 42家※

三十代もなかばになり、周囲を見直す余裕も少し出てきました。金沢八景の二年間、なつかしく、淡く……。

遅い結婚、遅い出産で、目下一才十ヶ月の子供を育てつつ、広告界でマイペースでなんとか日々を送っています。

（佛電通ヤング&ルビカム勤務）

※根本（川辺）京 45国※

毎年「香葉」を手にすると必ず短大時代の

友人に電話します。それも一時間近くもです。

ここ数年の私の儀式の様なものです。話の内容容といえは、互いの一年のごぶさたから入り、子供の話で落ち着きます。三人の子供の母ともなりますと、日々の雑事におわれて、短大時代を思い出すのはこの時だけです。

今年長男が小学校に入り、母子共々頑張らなくてはと思っております。

※稲田（鈴木）麻美 47国※

昨秋、主人の転勤で二年余暮した福岡から再び横浜へ戻って参りました。たった二年で故郷の横浜は大きく変化して戸惑うばかりです。多分、何年も訪れていない短大の変貌ぶりや如何や。

先日は「香葉」ありがとうございました。クラス会報告の中に「国文科七期生第二回めだかの会」の写真を見て懐かしい人達を発見。次回は是非出席したいのでお知らせ頂きたいと切望いたしております。

（陶大川木材勤務）

※萩原（大川）元子 48国※

昨年の十月に職場を異動し、家から十分の所と、近くなったため毎日自転車通勤して

います。長男五才、長女一才半となり、元氣に保育園生活を送っています。

先日、野島公園までドライブした時、校舎が立派になったのを見て感激しました。

(川崎市中原福祉事務所勤務)

※富塚(田辺)恵子 49回※

香葉を御送付いただきありがとうございます。とても懐かしく拝見いたしました。

早いもので卒業してからもう十年が過ぎ、二十代から三十代になり、学生時代のことを思い出すと懐かしくてしかたがありません。

卒業後帰省し、航空会社に勤務、十五年に結婚をして現在二才の男の子と忙しく過しております。

妹も国文科を卒業しておりますので、短大の話すると校訓の「人になれ奉仕せよ」の言葉がよく出てきます。いつまでもこの言葉を忘れずにいたいと思います。

※松本(永田)祐子 50回※

家事、育児に専念するために、栄養士の仕事をやめ、家庭にいましたが、子供が一才三カ月になった時、ご縁があつて調理師学校で「栄養学」を教えることになりました。今年

は二年目です。教えることのむずかしさをひしひしと感じている毎日です。

※中川(熊谷)節子 50家※

山形県人になってから四回目のさくらんぼの季節がやってきました。そういえば短大を卒業してから、もう八年が過ぎてしまったなんて、今さらながら月日の早さを感じております。現在私は一歳半の子供に振りまわされている生活が続いています。月に一週間程ですが、近くの医院にレセプト書きのお手伝いに行っております。(育児の息ぬきといったところですが)香葉を送って頂くたびに、学生時代を思い出しの頃のあの人は今どうしているかしら……とか、下宿のおばさんは今も元気で頑張っているかしら……とか思い出はつきません。本当にいつもありがとうございます。

※片桐(中島)和子 51家※

育児に追われる毎日ですが主婦として、やはり、短大で学んだ事は役に立つ事ばかりです。女子だけの学校は、始めてでしたが、楽しい思い出だけが心の中に残っています。短大の友達とは、今だに、おつきあいをしています。みんなもう、こぶつきの、オバサンで

すけれども……。

※加藤(高橋)みゆき 52家※

先生になって六年目。六年目といっても、受けもつ子供は毎年違うので、今年はどうな子供たちかな?と、毎年気持ち新たに発表しています。

バスで子供たちを送っている時、こんなことがありました。入園して一ヶ月位たった子供が、疲れて眠っている年長の子供を見て「先生、あの子お祈りしているよ!何、お祈りしているのかな?」その子供の質問に思わず笑ってしまいました。毎日がこんな可愛い会話であふれています。こんな素晴らしい職業に携わることが出来て感謝しております。

(上屋川幼稚園勤務)
※川上福子 54幼※

昨年、職場結婚した主人が偶然にも関東学院の出身でした。同期で入社したのですが、その時はまさかこの人と結婚するとは思っていませんでした。

現在は専業主婦の毎日ですが、時にはなつかしい関東学院の話をしあいます。でもおかしいですね。短大の二年間、主人とどこかで

すれ違っていたかもしれないなんて。

※金子（飯田）佐智子 55 国※

毎年『香葉』を楽しく読ませていただいています。年ごとに香葉会も充実していつているようで何よりです。短大も校舎や設備がだんだんと増えて私が学んだ当時とはかなり様変わりしたのでしょね。

さて、私は昨年医療保険の請求事務の勉強をし、現在月の数日間、医院へ出向いて仕事をさせていただいています。元来あわて者ですし、勉強不足もあってチーフさんやスタッフの方に迷惑をかけてしまうことも、まだまだ多いのですが、皆さん良い方たちばかりなので、いい雰囲気の中で仕事のできることを、幸せに思っています。

編集委員の皆様、これからも、どうぞよいお仕事をなさって下さい。

※富士さゆり 55 幼※

現在十ヶ月の長女の育事に追われております。ほんの二年前に、たった四人の専攻科で毎日忙しく過していたのが夢のように思えます。しばらくは家事、育事に専念するつもりですが、いずれまた勉強を開始したいと楽し

みにしております。

小野（杉山）立子 53 英、57 専※

今春三月に結婚しまして、主婦と会社員の忙しい毎日を送っています。卒業して二年少したちますが、学生時代を思い出すと、あの頃に戻りたいなあーと思います。現在もたまに職場で、学院で学んだことを生かせる場面がありますが、今になってもっと勉強したい、しておけばよかったと後悔しています。所帯道具の一つとして学校の教科書を持ってきましたので、これから暇をみて、見直してみようかなありと考えています。

※渡辺（氏家）智香子 57 英※

そろそろ適齢期だと言われつつ、やっと慣れてきた仕事と、自分の時間をエンジョイしています。人間関係で悩んで、寮母さん手紙を書いたこともあったけれど、なんとなく時間が解決してくれたみたいです。

でも、短大寮生活で得た友人が、離れていても今一番大切に思えます。

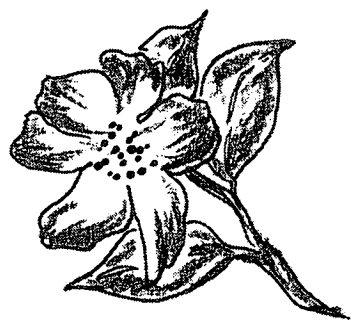
（市川薬品（働勤務））※本多 和美 58 国※

去年の七月から、この三月まで、勤務先の

園から出張で、ドイツの日本人幼稚園で働いておりました。出発当初は、二年間位、滞在しようかと思っておりましたが、途中で、ホームシックにかかったりで、三月までということに決め、無事（？）任務を果たして、帰国しました。今は、又、反町幼稚園で働いておりますが、園長先生から出張命令が出ましたら、又、行きたいと願っています。

先日、ドライブがてら学校まで行き、新しい校舎を見て、『すごいなー』と感心してしまいました。入って行きたくても、もう学生ではないので、だめか？と少々がっかりして帰ってきました。時折、学生にもどりたいと思う幼稚園教諭二年目の私です。

（反町幼稚園勤務）※福田美佐子 58 幼※



「三春台の集い」

門根 静子

八月二十日、昨夜来の雨でようやく酷暑も一息つき、ほっと救われたような思い。私は立秋後のこうした時は、そぞろ行く夏を思い、来る秋を待ちわびる好きな季節です。

昨年秋、「三春台で学んだ者の集い」が三十年ぶりに三春台校舎で持たれ、近來にない感激の一ときでした。昨春、新装なった短大校舎での同窓会にお招きを受け、その発展ぶりに目を見張り嬉しく思いましたが、反面、三春台時代の方が数える程で、何か淋しく佻しい思いを味わいました。何とか三春台時代の方が、この洋々と発展した六浦につながらないだろうか、祈るような切ない思いを古城さんと語り合い、林学長にお話し申し上げたところ、心から賛成して下さい、「一つやってみて下さい。三春台の学校当局との話は私が引受けましょう」と仰言つて下さったので意を強くして、「善は急げ」と各期別の有志の方々に連絡をとり、皆様それぞれお家のご事情があり乍ら、早速に役員会を開き、主旨の徹底をモットーに、総会準備へと全力投球―あちこち昔の住所を頼りに連絡をとり、

賛同を得た喜びを伝えて下さった世話役の方達、私は「きつと成功する」と大きな希望と喜びの自信が持てました。年月の流れの早さの中にあり乍らも、三十年という月日は決して短いものではないと思います。あのよう到大勢の方達が集まったことは、同窓会として初めてのことで、皆さんの心の中には若い頃の、あの三春台の学び舎が大きな場を占めていたのでございましょう。子育ても終つて、しつとりと落ちていた中年、熟年の素晴らしいミセス達、或いは仕事一筋に生きてこられた社会人の方達、昔変らぬお元氣な先生方、三十年ぶりの夢の同窓会：語れどもつきせぬ話の数々：感謝です。どうかこれを機会に、あなた方の後進の六浦に関心を持ち、強い絆で結びついて戴きたいと願つて止みません。きつとまた、六浦でお逢いたしましょう。終りに三春台のかつての青年教師、水野校長、行各先生方の細やかな御心遣いを感じ謝申し上げ、皆様の御健康と学院の発展を心から祈り上げます。

(元短大、女子高、別科教員)

付 記 古城 房子

一九八四年十一月十一日、相川元学長、柳

生院長、林学長はじめ三春台女専創立当時の先生方十人をお招きして、なつかしい百二十名の顔ぶれが集まった。リーディ実子姉(女専三回)の礼拝のお話は、アメリカでの御自身の心臓手術の体験を交えての心打たれるものであった。礼拝堂は昔のまま、女専の方達が演劇を上演した懐しい場所でもある。

コベルホールに場所を移しての親睦会は、先生方のお話、想い出話、近況報告と、秋の一日、娘時代に戻つての楽しい話。休日出勤で腕をふるつて下さった食堂のスタッフの御馳走に舌つづみを打ち、福引に笑いさざめき、再会を約して別れたのであった。三春卒業生にとつて、我が青春は三春台にあり、と思えるのだが、一方門根先生の云われるように、私達の学校が六浦校地に場所を移して現在の短大に発展したことを忘れずに、次回は六浦で新しい校舎を見て戴き、女専女子高、別科短大合同の会が出来れば最高と思つている。今回の会の成功も、門根先生の後押しと女専の方々の骨身を惜しまぬご協力のお蔭である。助けて下さった方々へ心から感謝申し上げます、三春台卒業生の皆様の、特に女専卒業生の方々の強力なご支援を心から願つものである。

幹 事 長	1 名	副幹事長	1 名
幹 事	若干名	年度委員	各年度 1名以上
監 事	2 名		

第6条 役員は次の方法によってこれを定める。

名誉会長は関東学院女子短期大学長をもって推戴する。

顧問は総会において委嘱する。

会長、副会長は正会員中より選出する。

幹事長、副幹事長は幹事会において幹事より選出する。

幹事は年度委員および特別会員より選出する。

年度委員は会員より選出する。

監事は会員中より選出する。

役員の任期は3年とする。ただし再任を妨げない。

役員に欠員を生じ、会長が必要と認めたときは、臨時に委嘱することができる。ただし、その任期は前任者の残任期間とする。

第7条 役員の職務は次の通りである。

顧問は会の諮問にの応ずる。

会長は会務を統轄し、本会を代表する。

副会長は常時会長を補佐し、会長事故ある時は会長の職務を代行する。

幹事長は本会全般の会務を処理する。

副幹事長は常時幹事長を補佐し、幹事長事故ある時は幹事長の職務を代行する。

幹事は会務を処理する。

年度委員は幹事を選出し幹事を補佐する。

監事は本会の会計を監査する。

(会 議)

第8条 本会の会議は次の通りとする。

総 会 毎年1回とし、会長がこれを召集する。
ただし必要に応じて、臨時にこれを開くことができる。

幹 事 会 必要に応じて、幹事長がこれを召集する。

以上の議決は出席者の過半数をもって行う。

(会 費)

第9条 正会員は会費を納入し、その金額及び納入方法は別に定める。

第10条 会計年度は毎年4月1日より翌年3月31日までとする。

(その他)

第11条 会員は住所・氏名・職業等に関し、異動があった時はその都度本部に連絡をする。

第12条 本会則の改廃は総会において出席者の3分の2以上の賛成を必要とする。

(付 則)

本会則は、昭和45年6月28日より実施する。

本会則は、昭和53年6月25日より改正実施する。

本会則は、昭和59年6月24日より改正実施する。

五十九年度

香葉会のつとめ報告

六月二十四日(日)午後一時より、久方ぶり母校での総会、つとめを開催いたしました。一時受付、一時三十分より光畑清さん(英二部卒)の司会により礼拝を持ち、続いて総会に入りました。今回は検案中の会則の一部改正案が提出され、皆様のご理解をいただき、承認されました。引き続き、場所を四号館食堂へ移し、なごやかなつとめを持ちました。食堂の細井係長はじめ、従業員の皆様
の心のこもったお料理をいただきながら、林学長先生、安藤先生、下田先生、宮川先生、小玉先生、徳永先生、山下(登)先生、手嶋先生、中田先生、加藤先生、小滝先生、小島先生、門根先生と、多数ご出席願えた先生方のスピーチをうかがい、又なつかしい友との語らいの時を持つことができました。そして楽しみに新図書館、校舎見学をし、四時すぎに解散いたしました。見学に際しては上市前事務長、鈴木事務長代理、大河原事務次長、又、図書館の松本課長補佐、永田さん、ルツ寮の田中寮母さん、英文科の新海さん、忍谷さん他、たくさんの方に協力いただきました。

香葉会会則

(総則)

第1条 本会は香葉会と称し、本部を関東学院女子短期大学内におく。
必要に応じ、支部を設けることができる。

(目的)

第2条 本会は関東学院建学の精神に則り、会員相互の親睦をはかり母校の発展向上に積極的に協力し、もって文化発展に貢献することを目的とする。

(事業)

第3条 本会は第2条の目的を達するために次の事業を行う。

- 会報の発行
- 会員名簿の発行
- その他必要な諸事業

(会員)

第4条 本会は次の会員をもって組織する。

- 正会員 女子専門学校、女子高等学校及び別科、短期大学、同第2部卒業生、女子短期大学、同専攻科また前記各学校に1年以上在学した者で幹事会の議を経て総会において承認された者。
- 特別会員 前項各学校の教職員であった者、並びに現在教職員である者。
- 名誉会員 本会に特別な功労があった者で、幹事会の議を経て総会において承認された者。

(役員)

第5条 本会には次の役員をおく。

- | | | | |
|------|----|-----|-----|
| 名譽会長 | 1名 | 顧問 | 若干名 |
| 会長 | 1名 | 副会長 | 1名 |

た。ほんとうにありがとうございます。御
礼申し上げます。改正なった会則は左記のと

おりです。アンダーライン部が改正箇所です。

贊助金をご寄付

くださった方へのお礼とお願い

今年も後記の方々から総額「五十二万四千円」をお送り頂き、厚く御礼申し上げます。

諸物価の値上げにより、年々「香葉」の発行がむずかしくなっておりましたが、卒業生唯一の雑誌をなくしたくないと、編集員一同がんばっておりますので、今後共賛助金の御協力をよろしくお願い致します。

五十九年度賛助金寄付者(敬称略)

田中晴子 米山雅子 木村燐子 松本智恵子
 積田昌子 田陽明美 藤沢弘子 稲川佳代子
 打野澄子 菅野明美 澤野洋子 福島美和子
 鶴岡麻里 沼田和恵 石田順子 高野由美子
 土屋明子 島本千佳 漆畑晴枝 山田依代子
 飯塚有子 渡辺智子 武藤民子 佐々木晶美
 岩田郁子 中川節子 辰沼滋子 飛田美江子
 稲垣愛子 松倉恒夫 黒沢優子 町田不二子
 岩堀迪子 齊藤裕子 梅山治子 島田絵里子
 古城房子 真鍋清子 金子ちよ 佐藤真理子
 野中琢美 中根悦子 北尾文代 二見アイ子
 堀治美 伊藤陽子 上川奈緒子 梶本美紀子
 熊谷君代 安藤憲子 黒川敦子 丸山千恵子
 高橋静子 山平洋子 高山政子 霜鳥三枝子

小松照代 高橋玲子 中野孝子 杉谷美津子
 原鳴曜子 門脇幸子 須田和子 白石真砂子
 古郡綾子 長部富子 山村玲子 河西妃呂美
 星明美 小菅慎子 森野恵理子 石田麻砂美
 池上尚子 渡辺利栄 遠田順子 豊田久美子
 中村智子 田辺洋子 霜田麻美 錦織マサ子
 肥土伸子 光島洋子 須田広子 川本真由美
 保川智子 佐藤恵子 中江雅子 大塚真理子
 増本順子 杉浦陸子 脇出和子 折地ゆきえ
 高木政美 斉田実子 中西文子 鈴木真理子
 山下信子 寺内雅子 中谷純子 遠藤美美子
 西山節子 松本律子 松田良子 高齋香代子
 椎名和美 梅田玲子 宮沢陽子 鈴木志津子
 鳴沢和美 庄司えり 尾川直美 伊藤恵利子
 中川あや 土屋幸枝 諸橋和子 大石豊代子
 川口香子 戸巻薫 中島貴美枝 宮地みさ子
 平野弘子 永井月秀 鈴木葉子 木下美奈子
 松浦佳子 松下幸子 杉山愛子 肆矢三佐子
 古賀恵子 見目光江 紙透洋子 都々木浩子
 秋山悦子 大島好恵 高橋秀子 栗谷千恵子
 良知真弓 久保弘子 矢野紀子 関谷由利子
 岡崎幸恵 富田真弓 藤浪伸子 田丸瑠実子
 川本良子 鈴木弥生 大井法子 福田しほり
 山本初江 井田玲子 志賀ミチ 中田ルミ子
 鹿渡泰子 市川淳子 鶴見智子 福岡世紀子
 東頭寿子 夕八茜 小林千鶴子 小島美津子
 小林守信 渡辺光代 小島純子 三堀恵里子
 齋藤比子 三村勝美 月本鈴子 丸山るみ子
 中嶋洋子 石守えみ 篠原愛子 市山久美子
 澤島時子 高橋美晴 田中晴子 古田紀己子
 加瀬雅子 土山忠 山崎由紀子 小野寺玉江
 白石節子 松本紀子 佐藤久子 田辺美紗子
 石黒和子 松本孝子 川島久里 飯田三都子
 石井順子 林明美 海老塚君子 中村はるみ
 西尾由美子 町田香代子 小林美知子 匿名
 外山良子 光畑清 後藤美和子 岩野由美子
 城戸順子 山内晴美 安彦潤子 青木美恵子
 長谷川不二恵 カンニカ・ラタナティブ
 井上文枝 水野雅子 寺岡利子 室永ヨシ子
 淵上龍美 田中久恵 砺波雅代 田辺八千代
 福川浩代 蜂谷弘子 相吉典子 鈴木恵美子
 恩田晴子 松友明見 相原梅子 井上多恵子
 佐藤美代 川田恒子 馬屋原絹子 八木智恵子
 水野喜美 西村恵子 杉江靖子 石垣むつみ
 内山道子 小辻憲子 小野和江 長谷川有紀
 金田宏子 沖田滂子 田牧洋子 鈴木トク子
 菅野弘恵 成瀬節子 太田和江 吉原千恵子
 海老塚静子 海老沢さよ子 小野寺由美子
 葛城谷子 加藤紀子 青木千恵子

(以上二五一名)

香葉会 決算・予算報告

「香葉」の発行が繰り下がりましたので、58年度、59年度、60年度分について、まとめてご報告申し上げます。

昭和 58 年 度 決 算				59 年 度 予 算	
収 入 の 部	予 算	決 算	増 減	収 入 の 部	予 算
会 費@4,000×754	3,016,000	3,016,000	0	会 費@8,000×762	6,096,000
賛 助 金 (207名)	400,000	390,087	9,913	賛 助 金	400,000
委 託 販 売 手 数 料	600,000	1,365,183	△ 765,183	委 託 販 売 手 数 料	700,000
総 会 会 費	100,000	117,500	△ 17,500	総 会 会 費	70,000
預 金 利 息	10,000	10,054	△ 54	預 金 利 息	10,000
雑 収 入	5,000	2,500	2,500	雑 収 入	5,000
積立金勘定より繰入	500,000	0	500,000	前 年 度 繰 越 金	260,389
合 計	4,631,000	4,901,324	△ 270,324	合 計	7,541,389
支 出 の 部	予 算	決 算	増 減	支 出 の 部	予 算
通 信 費	1,200,000	1,312,700	△ 112,700	通 信 費	2,000,000
印 刷・製 本 費	650,000	577,010	72,990	印 刷・製 本 費	650,000
総 会・会 合 費	700,000	576,290	123,710	総 会・会 合 費	600,000
交 通 費	70,000	32,160	37,840	交 通 費	100,000
用 品 費	10,000	42,920	△ 32,920	用 品 費	50,000
委 託 費	50,000	48,472	1,528	委 託 費	90,000
謝 礼 費	70,000	54,000	16,000	謝 礼 費	135,000
消 耗 品 費	20,000	29,563	△ 9,563	消 耗 品 費	50,000
人 件 費	450,000	491,150	△ 41,150	人 件 費	600,000
合同同窓会分担金@300×754	226,200	226,200	0	合同同窓会分担金	228,600
新 入 会 員 歓 迎 費	995,800	1,120,800	△ 125,000	新 入 会 員 歓 迎 費	200,000
積立金勘定繰出	0	0	0	積立金勘定繰出	500,000
名簿発行準備金	0	0	0	名簿発行準備金	2,000,000
雑 費	29,000	6,820	22,180	雑 費	37,789
予 備 費	160,000	122,850	37,150	予 備 費	300,000
次 年 度 繰 越 金	0	260,389	△ 260,389		
合 計	4,631,000	4,901,324	△ 270,324	合 計	7,541,389

昭和 59 年 度 決 算				60 年 度 予 算	
収 入 の 部	予 算	決 算	増 減	収 入 の 部	予 算
会 費@8,000×762	6,096,000	6,096,000	0	会 費@8,000×(794+1)	6,360,000
賛 助 金	400,000	524,000	△ 124,000	賛 助 金	500,000
委 託 販 売 手 数 料	700,000	1,017,923	△ 317,923	委 託 販 売 手 数 料	700,000
総 会 会 費	70,000	76,000	△ 6,000	預 金 利 息	10,000
預 金 利 息	10,000	12,811	△ 2,811	雑 収 入	5,000
雑 収 入	5,000	39,395	△ 34,395	前 年 度 繰 越 金	306,832
名簿発行準備金均繰入	0	753,680	△ 753,680		
前 年 度 繰 越 金	260,389	260,389	0		
合 計	7,541,389	8,780,198	△ 1,238,809	合 計	7,881,832
支 出 の 部	予 算	決 算	増 減	支 出 の 部	予 算
通 信 費	2,000,000	2,341,855	△ 341,855	通 信 費	2,200,000
印 刷・製 本 費	650,000	852,070	△ 202,070	印 刷・製 本 費	700,000
総 会・会 合 費	600,000	554,936	45,064	総 会・会 合 費	1,100,000
交 通 費	100,000	138,050	△ 38,050	交 通 費	150,000
用 品 費	50,000	773,190	△ 723,190	用 品 費	500,000
委 託 費	90,000	139,960	△ 49,960	備 品 費	40,000
謝 礼 費	135,000	50,000	85,000	委 託 費	100,000
消 耗 品 費	50,000	132,165	△ 82,165	謝 礼 費	150,000
人 件 費	600,000	600,000	0	消 耗 品 費	50,000
合同同窓会分担金	228,600	228,300	300	人 件 費	1,200,000
新 入 会 員 歓 迎 費	200,000	0	200,000	合同同窓会分担金	238,500
積 立 金 勘 定 繰 出	500,000	500,000	0	新 入 会 員 歓 迎 費	1,000,000
名簿発行準備金	2,000,000	2,000,000	0	名簿発行準備金	200,000
雑 費	37,783	7,840	29,949	雑 費	13,332
予 備 費	300,000	155,000	145,000	予 備 費	240,000
次 年 度 繰 越 金	0	306,832	△ 306,832		
合 計	7,541,389	8,780,198	△ 1,238,809	合 計	7,881,832

母校ニュース

＜新任教職員紹介＞

内藤 明先生——国文科担当



国文科の専任講師として、上代（万葉の時代）を担当されています。女子だけの環境は初めてのことです。毎日緊張の連続とのことです。温和な笑顔が印象的です。

藤本 憲太郎先生——家政科



生活文化専攻担当 新しく増設された生活文化専攻の専任講師として、住生活史、住居学、住居学演習を担当されています。新しい分野への意欲満々の先生です。趣味は彫金とのこと。

佐々木 昭子先生——付属幼稚園主事



関東学院野庭幼稚園より、本学の付属幼稚園主事として転任してこられました。毎日園児達と一緒に元気ハツラツとしていらっしやいます。

依 秀雄さん——学生課



関東学院大学経済学部を卒業。現在学生課で主にクラブ関係を担当しています。細面のやさしい顔立ちをしています。軟式テニスではかなりの実績の持ち主です。

布施 里佳さん——食堂栄養士



五五年家政科食物栄養専攻を卒業。病院栄養士を経て短大へ帰ってきました。寮食は特に好評で、人間を創るのは心細やかな食事から、と毎日頑張っています。

＜関東学院創立百周年記念式＞

昨年の十月六日(土)、三千余名の出席者を持つて、釜利谷校地にて盛大な百周年記念式と祝宴が開催されました。

本学院は横浜パブテラスト神学校設立の明治十七年（一八八四年）十月六日を記念して創立の日と定め、一月二十七日から十月六日に改定しました。昨年はちょうど百年（一九八四年）に当たり、学院全体あげての記念式典となりました。当日はあいにくの肌寒い曇り空ではありましたが、きれいに刈り込まれた芝生の上に、三千名収容の大テント二張りがか



張られ、緑の絨毯を敷きつめたよう、屋外とは思えぬ程でした。記念式はキリスト教形式で挙行され、式終了後隣りのテントに移り、祝宴と歓談のひとときを過ぎました。

〈生活文化研究所を設置〉

昨年六月二十八日に生活文化研究所を設置し、同年十月三日に開所式が行われました。本学の研究所は、なるべく本学を構成する



諸学問を包含するもので、また関東学院大学など、既存研究所に類似するものではなく、女子高等教育を行う本学の特性をふまえ、独特のものを持ち出した研究所です。

図書館五階

この研究所は単に生活をめぐることを科学的にとらえて研究するのではなく、従来あまり学問研究の対象とされなかった日常生活をテーマに、各分野の専門家が共同で研究を進

めていこうというユニークな試みです。十月四日付神奈川新聞にも大きくとり上げられ、学外からも成果が注目されています。

○生活文化研究所のあゆみ

59・6・28 生活文化研究所設置

59・10・3 開所式

設立記念講演会「生命の神秘を探る」筑波大学・村上和雄教授

59・12・12 講演会「ニューメディアの将来」生活構造研究所・高橋徹

研究員

60・2・27 講演会「豊かな生活文化の創造と女性」神奈川県立婦人教育センター・金森トシエ館長

60・6・12 講演会「東南アジアから見た日本の生活文化」インドネシア民族大学日本研究センター・アリフィン・ベイ所長

〈家政科に生活文化専攻発足〉

本年四月より家政科に新たに「生活文化専攻」が増設され、その第一期生六〇名が入学しました。

高度経済成長時代が過ぎ、女性の地位向上

が目ざましく、またさらに高齢化社会へと確実に変容していく現在、従来の家政科では対処しきれない事例が生じてきております。そこで情報化社会、高齢化社会への伸展に対応して新しい分野の増設をいたしました。

「生活文化専攻」では、人びとの生活の中でより大切になった適確な生活物資の選択、柔軟な創造性、心と物のバランスを考える文化面に視点をあて、真の意味でのゆとりのある生活の構成をめざすことのできる人材を育成していくことを主としています。第一期生の活躍が大いに期待されています。



住居学演習の授業風景

〈新校地入手〉

運動場及び体育施設を充実させるため、昭和五十四年三月に関東学院大学と共同購入した釜利谷校地と、本学に隣接する六浦校地の野球場・テニスコートとを等価交換することが決まりました。このため短大では現在、マスタープランの作成に着手しています。

5周年 県央のつどい

日時 昭和60年11月17日(日)

午前11時～11時半 香葉会懇談会

午後12時～2時 県央の集い

会場 小杉会館 厚木店 (小田急本厚木下車)

会費 女性 ¥4,000、同伴者大人 ¥2,000、子供 ¥1,000

連絡先 県央のつどい事務局

厚木ヤクルト販売内 高田喜八 電話 0462-28-8969

ご家族同伴、お友達ともどうぞ。

編集後記にかえて……

「香葉」が届かないのですが……発行しないのですか……というお問い合わせ。実は、今年から香葉会の主力を十一月の短大祭に合わせて予定を組んでいたのです。六月の最終日曜日に行っていた「香葉会のつどい」なのですが、場所の確保がマナナズ、毎年参加者も淋しくなっていました、役員は常に頭をかかえておりました。幸い昨年、林学長先生のご理解のもとに教職員の皆様のご協力をいただき、短大祭に一部屋をお借りして、同窓生の部屋を持つことができました。やはり母校への関心は絶大なもので、延べ五〇〇人余りの方々が訪れて下さいました。この時ならば先生方もゆっくりお話しができるのではないかと前々から考えていたもので、今年は大イベントを加え、参加させていただくことになりました。

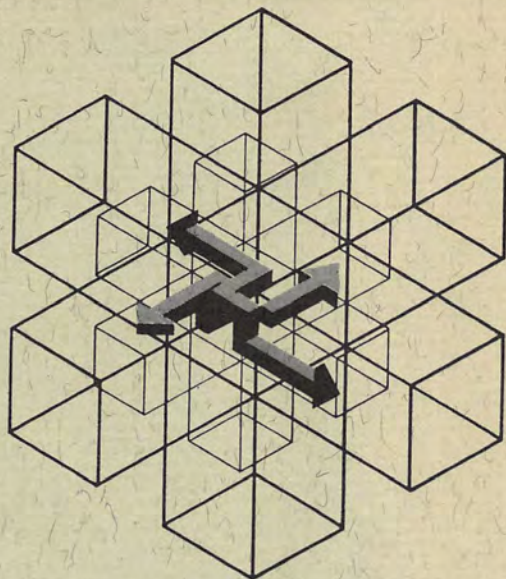
昨年は創立一〇〇周年、生活文化研究所の開設、又今年三月には上市事務長の定年と、大きな節目に当たり、香葉会も将来へ向けて改革をしていかなければならない時期がやってきたというわけです。毎年新緑の頃届いていたこの「香葉」、まさに紅葉の始まる秋に

発行とあいになりました。何かとご不満もおありかと思いますが、どうかご理解いただき、今後共ご愛読、ご協力下さいますよう、心よりお願い申し上げます！
毎年お忙しい中、心良く執筆していただいた学長先生はじめ諸先生方、何かとご声援いただいた事務の皆さん、そして編集委員の皆さん、ほんとうにありがとうございます。

この場を借りまして御礼申し上げます。
最後になりましたが、上市先生を囲む会に際しましては、多数の皆様より記念品代をいただき、本当にありがとうございます。会を代表いたしまして、心より御礼申し上げます。 幹事長

▼編集委員▲

井上啓子 川名幸子 高田晴美
藤岡恭子 三輪浩美 瀧上龍美



後輩へ就職求人を!

本学卒業生の就職については、卒業生の実績が実を結び、毎年卒業予定者の2～3倍に達する求人があり、各科共百パーセントに近い成績をあげています。しかし、地方出身者に関しては、短大卒業生を受け入れる職場が少ないのです。そこで、高校卒業生に比較し、対人応待等に優れ、即、戦力化し易い短大卒業生、皆様の後輩採用を、皆様及び皆様のご主人に是非、ご検討いただきたいのです。

短大生ご採用のお話しがございましたら、下記学生課就職係迄、ご連絡いただきますように、お願い申し上げます。

〒236 横浜市金沢区六浦町4834 Tel (045) 784-1491 内226・258

関東学院女子短期大学学生課就職係

香葉 第14号

昭和60年10月25日 印刷・発行
関東学院同窓会・香葉会

代表者 古城 房子

横浜市金沢区六浦町4834 郵便番号236

関東学院女子短期大学内

電話<045>784-1491 (内線 216)

關東学院同窓会・香葉会誌